

登録コード	HM133100	開講年度	2026				
授業題目	分子病理学特論				担当教員	藤井 千文 他	
英文授業名	Molecular Pathology				副担当	山中 仁木・川久保 雅友	
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				様々な疾患の病態形成を明らかにするための分子病理学的研究の有用性について理解できるようになる。		
(2)詳細 /Detailed information	病理学は疾病の成り立ちを明らかにする学問である。長年、肉眼的並びに光顕的観察による形態学的なアプローチによる研究が主であった。しかし、近年では分子細胞生物学の目覚ましい発展により、分子や遺伝子からのアプローチによる分子病理学的研究が進んでいる。これらの研究で得られた知見により、疾病の成り立ちが分子レベルで明らかになりつつあると共に、分子診断や分子標的治療の開発が急速に展開されている。本授業では、様々な疾患の病態形成を明らかにする上で、分子病理学的研究の有用性について理解を深めることを目的とする。						
(3)授業の概要 /Overview of course	「ヘリコバクター」と「自然免疫」をキーワードに、分子病理学研究で得られた具体的な解析事例を解説する。						
(4)授業計画 /Course plan	(第1～8回 藤井千文・川久保雅友) ヘリコバクターピロリと胃癌 (第9～12回 藤井千文) 自然免疫とその異常 (第13～15回 山中仁木) ヘリコバクター属菌を含む消化管常在細菌と自然免疫応答						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：第16回の授業終了時にレポート提出を求める。 成績評価の基準：(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価する。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	学会出席など致し方ない場合を除き、欠席することなく出来る限り出席すること。また、授業内容に関連した文献を配布するので、事後学習に活用すること。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	担当教員に直接連絡を取ること。						
(8)授業の形式 /Course format	授業内容に関連した文献を配付する。						